

2009 年度 第 25 回

在日アジア人留学生への研究補助

受給生紹介



神奈川県・日吉の慶應義塾大学にて

RASA－アジアの農村と連帯する会
Rural Asia Solidarity Association

氏名 Outavong Pathammavong
(ウタヴォン パタムマヴォン) |
国籍 ラオス
大学 東京大学医学系国際保健政策学
博士課程 3 年



(留学目的)

ラオス国で研究アシスタントをしていた時、獣医学の専門を生かして公衆衛生に関する研究をすることに興味を持ちました。日本の研究者からフィールドリサーチの技術を学びました。そしてその技術を私が習得することができたら、私の国であるラオス国にとって大変役立つと思うようになりました。更に、日本の大学の中で特に東京大学は世界的な研究を行う大変素晴らしい大学であるため、留学を決意しました。

(研究課題)

タイトル：ラオス国の農村地域における病院出産の決定要因について

2005年にラオス国の妊産婦死亡は出生児 100,000 当たり 660 に及び、33 人に 1 人の女性の死亡が妊娠に関わる原因によることを意味します。ラオス国政府は出生児 100,000 当たりの妊産婦死亡を 2015 年までに 185 まで下げることが目標にしています。しかし、現在、医療施設での出産は 17%にとどまっています。この現状を踏まえ、ラオス国の農村地域における女性の病院出産を促進するための決定要因を探索することが研究目的です。

氏名 吳 準洙 (オー ジュンス)
国籍 韓国
大学 法政大学人間社会研究科
博士課程 1年



(留学目的)

同じアジアの国でありながら韓国よりは遙かに障害者福祉が発達している日本に興味を持ち、日本の中で障害者福祉に優れている地域を中心とした研究を行い、修士論文を書きました。修士課程での研究を土台として、自分の研究を深めるために日本での博士課程を決めました。

(研究課題)

修士課程でのテーマは、障害者が地域に参加できる一つ的手段としてバリアフリーを中心とした研究を行いました。博士課程では、バリアフリーだけでなく地域で障害者との共生のために行っている取り組みを日韓比較の観点から研究していく予定です。

氏名 吳 定英 (ウー テイエイ)
国籍 中国
大学 北里大学医療系研究科
修士課程



(留学目的)

日本の医療システムおよび健康保険制度は世界のトップ・レベルにあることを踏まえ、医療改革を進めている中国には学ぶべき、モデルすべき所がたくさんあると思います。私はこれらの知識と技術を身につけ、国に応用することを今度の留学目的としております。もちろん留学の間に日本の文化、伝統、習慣にも深く触れて、両国の文化、特に医学交流にも力を尽くしたいです。

(研究課題)

現在の研究テーマは中国におけるナースのストレスとその対応策の取り組み。中国の看護師のストレスや精神的健康度についての報告はこれまで数が少ないがさまざまな問題をかかえた医療の現場で看護婦が自身の精神的健康を保ちながら意欲的に質の高いケアを提供していくために看護の立場を専門的に理解し、サポートしていくことが望まれる。

氏名 Siqin (スチン)
国籍 中国 (内モンゴル)
大学 名古屋大学教育発達科学研究科
博士課程 2年



(留学目的)

私は中国内モンゴルの北部草原に生まれ育ったモンゴル人です。厳しい自然環境とインフラ設備の足りない民族学校の中で義務教育を受けた経験と、その後民族学校で勤務した経歴が私の研究活動への動機となります。国家統合のための義務教育は少数民族にどのような影響を与えるか、また、少数民族のための義務教育のあり方はどうあるべきか、疑問に思えてたまりません。義務教育の強化は戦後いち早く立ち直った日本の一政策です。私は国民資質の底上げと経済成長につながったこの教育大国で是非教育学を研究し、その成果を内モンゴルにて応用しようと来日しました。

(研究課題)

博士課程における研究テーマは「中国改革開放後の義務教育の展開と少数民族教育政策—内モンゴル自治区を中心に—」です。この研究は、中国の国家教育政策が少数民族教育に与える影響を考察し、少数民族地域における民族教育の実態を明らかにして、さらに、少数民族教育の限界と可能性を明らかにすることを目的とします。

氏名 Chandana Dinesh
(チャンダナ ディネーシュ)
国籍 スリランカ
大学 京都大学都市環境工学
博士課程 1 年



(留学目的)

日本では、地震・台風などの過酷な自然の脅威があり、国土及び社会基盤施設を防御するための技術の高度化が求められています。その最先端技術を理解できれば途上国であるスリランカの発展にも役立つのではないだろうかと思い、子供の頃から興味を持っていた土木工学を身につけようと思い日本への留学を決意しました。

(研究課題)

「衛星データを用いたアジア沿岸域における環境災害リスク評価」

2004年のスマトラ沖津波の発生以降、東南アジア諸国において津波・災害・環境からの国土保全という観点から沿岸域の災害リスク評価が必要となっています。本研究では、衛星画像及びGPS, GISなどのデジタルデータを用いたアジア沿岸域における環境災害リスクの評価を行う計画であります。

氏名 Awal Nandini (アワル ナンディニ)
国籍 バングラデシュ
大学 東京大学工学修士課程 2年



(留学目的)

建築技術で世界を率いる日本の優れた先端技術に夢と期待を抱き、2006年07月にバングラデシュから来日しました。建築技術の分野において、私の国は未だに人間個体まわりの空間、ライフ・スタイルから考えるデザイン住宅、低所得者向け住宅、病室、オフィス、公共的空間などを対象とした建築設計デザインの研究にかなり遅れています。近年、経済成長における大規模な建設ラッシュによる自然破壊、生態系の破壊等も心配されています。建築技術の分野で先端を行く国日本で勉強したく、来日しました。

(研究課題)

建築業界では、ライフ・スタイルから考えるデザイン住宅、低所得者向け住宅がこれからのキーワードになります。研究課題として、「ライフ・スタイルから考える低所得者向けの住宅」にしました。日本の大学で学んだ専門知識を生かし、バングラデシュの発展に貢献できればと思います。また、建築設計・デザインの正しい知識を伝え、大規模な建設ラッシュによる自然破壊、生態系の破壊等も訴えたいと思います。修士課程を無事に終了するには RASA 研究補助が不可欠です。よろしくお願い申し上げます。

氏名 周 馨麗 (シュウ ケイレイ)
国籍 中国
大学 日本福祉大学大学院社会福祉学科
修士課程 2年



(留学目的)

私は当初、成人看護学を研究するために来日しました。しかし、日本で高齢化社会の問題を実感し、中国でも将来、高齢者に関する問題が注目されると考えました。そこで、2005年、長野県看護大学大学院看護研究科の老年看護の修士課程に進学しました。その後、高齢者問題が看護だけでなく医療・福祉の面からのアプローチが求められていることを痛感し、2008年本学大学院に進学しました。21世紀は高齢者への保健・医療・福祉の総合的サービスが求められています。今後日中両国の比較も含めてさらに研究し、臨床現場で活用したいと思っています。

(研究課題)

現在の研究テーマは、「中国と支部に置ける社区福祉サービスと社区衛生サービスの連携に関する研究—東北地方ハルビン市を事例として—」です。中国都市部の高齢者に対する社区福祉と衛生サービスについてのあり方を明確にし、その両者を一体的に提供できる体制整備の問題点を探ることです。調査方法は、調査地となるハルビン市で、事前連絡していた施設に訪問し、住民にアンケートと聞き取り調査の両方を行います。

氏名 李 靑錫 (イ ジュソク)
国籍 韓国
大学 東京大学人文社会系研究科 研究生



(留学目的)

私が以前から社会福祉に深い関心を持ち、政治及び行政にも興味を持っていた。特に国に全体が一丸となって築き上げた福祉国家こそが一国の社会福祉が目指すべき究極的価値であると信じていた。一国の政治及び行政の根本は人間であり、その価値は人間の暮らしをより良くすることにある。社会福祉の根本も人間であり、その価値も同じである。

日本に留学した理由は社会福祉を勉強するためである。具体的には韓国が福祉国家になるに必要である政策及び制度等を研究したいと思っている。日・韓の社会福祉を比較・研究史、日本の良い制度は韓国にも適用できるように勉強したいと思っている。

(研究課題)

1997 年経済危機以後、韓国社会には福祉に対する需要が急激に増加した。この時期を分岐に韓国の社会福祉は拡大してきた。そして福祉国家に関連する理論や研究も行われてきた。ただし、理論や研究は韓国内の実状に止まった。

日本は 1972 年、当時の田中首相が“1973 年は日本福祉の元年”として宣言した。そして、当時の日本式福祉による「日本型福祉国家」は 70, 80 年代に欧米福祉社会に大きく注目された。私は当時の「日本型福祉国家」を研究しつつ、現代福祉の主流となっている地域福祉を取り入れ、韓国型福祉国家モデルを提示したいと思っている。

氏名 蔡 文賓 (サイ ブンヒン)
出身 台湾
大学 早稲田大学教育学部 学部 4 年



(留学目的)

台湾で仕事をしていた時、自分の知識や技能を幅広く深く磨きたいために、夜コミュニティ大学の生涯教育コースに通いつつ、パソコンや日本語などを勉強し続けていた。しかし、コミュニティ大学における政策、システムの運営、授業設定、または支援が不足だと感じていた。授業中に、先生は生涯教育が台湾より日本の方が進んでいると論じていた。日本の生涯教育は内容や種類が豊富で、専門的なものが多いそうである。日本と比べたら、台湾の生涯教育システムが不十分なことを知った。それで、生涯教育に関心を持つようになった。将来は生涯教育職員として生涯教育に関する仕事をしたいと思っている。日本のいい点を台湾の生涯教育に取り入れようと来日した。

(研究課題)

研究課題では台湾と日本の外国人花嫁の生涯教育を軸に考察を行った。授業による生涯教育施設訪問先で数多くの外国人女性が施設を利用している姿を目に入られ、深く理解してみたら、近年の日本社会に『外国人花嫁の増加』をめぐって議論された。日本は 1980 年代後半から農村地域を中心に増加した「アジアからの花嫁」、「農村花嫁」と呼ばれる外国人女性が殺到してきた。農村の嫁不足対策としてアジアから花嫁を招き、生活風習も違うし、家族とのコミュニケーションがまったく取り合えずに、数多くの厄介な家庭問題がしでかされた。そのために、政府側か民間側が取り組んだ対策は国語の学習会やカルチャー教室や日本料理教室などの講座が行われて習わせる場合が多い。その一方で、数年前から台湾社会にも外国人花嫁の導入問題で注目が集められてきた。その故、現在日本と台湾社会に巻き起こされた社会問題である「外国人花嫁の導入問題」に相当深い関心を持つようになり、このようなことに関し、大学で勉強している。

氏名 陳 穎燕 (チン エイエン)
国籍 中国
大学 早稲田大学大学院政治学研究科
修士課程 4 年



(留学目的)

過去数十年間、中国では急速的経済発展に伴い、環境問題も非常に厳しくなってきました。日本列島に影響を及ぼしている中国渡来的黄砂、酸性雨、化学廃棄物的海洋投棄などの解決のために、政府間の日中環境協力にとどまらず、「地球市民（環境市民）」の育成を含めた様々の領域における日中両国のジャーナリズムの協力が必要であり可能性も十分である。私は中国でジャーナリストとしての実務経験を持っており、中国の実状は理解しています。日本への留学を通じて、先進的な理念、政策及び有効な実行方法に関する勉強のほか、日本の同業者とも十分交流し、今後両国の環境ジャーナリスト間の交流と協力にも貢献できたらと強く思っております。

(研究課題)

「中国の地球市民の育成におけるジャーナリズムの役割及び役割の遂行」

1. 「地球市民」に必要なもの、つまり、「地球市民」が備えるべき条件は何か？；2. 「地球市民」の育成におけるジャーナリズムの可能性；3. 役割の遂行に当たり直面する課題と解決方法；4. 日本における事情の勉強及び日中比較。現在は、上記の問題意識を持ちながら授業に参加し、「現場」に立って日本ジャーナリズムの事情及び環境問題への理解を深めたいと考えております。